

4.6 プレFD(PFFP・NFP)アンケート

(1)大学教員準備プログラム(PFFP)

1. プログラム(東北大学 PFFP)全体について(N=26)

	とても良かった	良かった	あまり 良くなかった	全く 良くなかった
開催時期	54%	23%	19%	4%
1週間の集中講義形式	88%	12%	0%	0%
1回の学習時間	54%	38%	8%	0%
課題の量	65%	19%	15%	0%
プログラム全体	88%	12%	0%	0%
欠席時の対応	62%	35%	4%	0%
わからないことがあった時の対応	81%	12%	8%	0%

2. プログラム全体についてご意見がありましたら教えてください。

- ・全体的にとても良かったです。個人としてこの四日間の進めは順調でした。自分自身で経験しないと、特にやって自分の様子を見るのは貴重な経験だと思います。
- ・博士学位審査が落ち着いた時期の開催だったので良かった。4日間で情報量や課題の負荷は大きかったものの、濃密に学べる時間だったため満足している。
- ・開催時期について、年内(1~3月以外)であったら、よりありがたかったです。東北大学(もしくは所属担当事務さんの方針)に限られることかもしれませんが、院生経費の締切が年末に設定されているため、もう少し早い開催時期、もしくは受講可否の連絡をいただけるタイムラインですと院生経費を活用することができたので助かりました。2日目終了後から3日目までの期間、業務が非常に忙しく、業務も課題も中途半端になってしまいました。次に、誰か知人が受講することがあれば、この期間の業務はミニマムにしておくことを強く勧めたいです。
- ・戸村先生もおっしゃっていたとおり、そもそもこの教材の企画自体が他にはない希少性の高い講座であると感じます。また、志を同じくする仲間を得られるのも貴重な機会だと思います。
- ・昨年度の感想から推察されるほど課題の量が多くなく、短期間で取り組みやすかった(私がよく言えば効率的、悪く言えば手抜きな学生だったからかもしれませんが…)。授業時間自体も普通の学習から比べればそこまで長いとは感じなかった。あと1時間ほど多いと長いと感じ始めそうだが、ちょうど良いくらいで締まっていたと思う。
- ・PFFP 受講者の応用編(上級編)があると有り難い。
- ・社会人院生を考慮すると金・土のように土曜日を絡めるとより参加しやすいかと思いました(休暇取得日数の関係)。
- ・私は助教の話が既にあり、12月に公募書類提出、1月半ばに採用のためのプレゼンテーション(学科教員全員参加)があり採用結果がきってからPFFPでしたので流れはよかったです。しかし仙台という土地柄雪のリスクを考慮し秋でもよかったのかもと思いました。参加者の背景を見るとまだ教員になるかどうか分からない方も多かったので大半の方は年度末である必要性は低いと思いました。毎回リフレクションがある事を事前に教えてほしかったです。偶然もありますがオンライン講義両日ともに講義の後に他のzoomでの講演会や会議、院の補足授業が入っていたので、すぐに課題に取り組むことができず少しあふたしました。Q&Aのためにzoomを開けて頂きありがとうございました。しかし全ての時間帯仕事をしており参加することができませんでした。講義参加で休みを頂いているのでその分、他の日がきつくなるので仕方ないのですが何かもう一つQ&A機会があると嬉しかったです。
- ・私事ですが怒涛の実験スケジュールだったため、この日程・学習量でなければ参加できなかったと思います。その点では大変ありがたかったです。戸村先生をはじめとした講師の先生方も親身になって一人一人コメントをしてくれたので、質問もしやすく、非常に多くの学びを得ることができる濃密な4日間でした。
- ・空路で参加したので、開催時期については2月(冬季)は見直された方がよいと思います。風雪、交通アクシデントが起こるためです。また、入試時期でもあり最寄りのホテルが早々に埋まるからです。
- ・冬は教員職が決まった方には間に合わないかもしれませんが、夏にするのはより良いと思っています。
- ・全てのプログラムに出席したため、「欠席時の対応」はどうかのわかりませんが、先生方やスタッフの皆さんのお人柄からきつととても良い対応をされるものだと思定して、「とても良かった」という評価にさせていただきました。

3. プログラムの内容について

	とても良かった	良かった	あまり良くなかった	全く良くなかった
学習目標が明確に設定されていた	85%	15%	0%	0%
プログラムの内容はよく整理、計画されていた	92%	8%	0%	0%
コースの学習量は適切だった	65%	35%	0%	0%
実際に大学教員になった時に役立つと思う	92%	8%	0%	0%
研究室や知り合いの大学院生にも勧めたいプログラムだった	81%	19%	0%	0%

4. 3で「あまり良くなかった」「全くよくなかった」と回答した方は、その理由を教えてください。

回答なし

5. 東北大学 PFFP(大学教員準備プログラム)で、もっとも役に立った授業は何ですか？(3つまでの複数回答可)

質問項目	回答人数
1 日目午前:イントロダクション、大学・高等教育の現在	1人
1 日目午後:学生理解・教授法・授業設計論・評価①	14人
2 日目午前:評価②・(ルーブリックの作成)	5人
2 日目午後:シラバスとクラスデザイン作成	11人
3 日目午前:シラバスとクラスデザインの共有・検討	12人
3 日目午後:模擬授業①	19人
4 日目午前:模擬授業②	11人
4 日目午後:模擬授業のふりかえり・アカデミックキャリア・まとめ	1人

6. 5で選んだ理由をお書きください。

- ・実際には全部も選択したいが、自分自身に対して「行動力」を重視しています。覚えるより、一回行動して、もっと印象が深くなりました。
- ・模擬授業をして自分で見直す経験は、問題点を分析する上で非常に良かった。プログラム全体を通して、学びへの意欲が高く、良い雰囲気を感じられた。特に模擬授業における建設的なフィードバックは、とても貴重なものばかりで、大切に保存しておきたいと思う。
- ・模擬授業を入れるかとても悩みました。講義なしにシラバス、クラスデザインシート、模擬授業それぞれの演習だけであったとしたら、自分の準備、グループメンバーからのフィードバックの質やグループディスカッションは全く違ったものであったと思うからです。かといって、講義だけで演習とフィードバックがなければ、実践的な学びは得られなかったと思います。どれも欠かせない授業でした。
- ・理論を学んだうえでの実践が一番役に立つ学習方法だと実感しました。
- ・自らの盲点を他者の指摘により明確に洗い出せる、そして良い例に関して勉強になるため。
- ・実際に対面でグループワークをしてみて、模擬授業での共通する点や異なる点を探れて良かった。自身の話している姿を実際に振り返ることができ、思っていたほど悪くはないことに安心した。一方で、改善点自体はたくさんあり、今後の授業の際に理想像に徐々に近づければ良いと思った。
- ・特に、シラバスの書き方は、大変勉強になりました。
- ・①ID の手法をはじめ、大学教育において重要な要素が簡潔にまとめられており、しっかりと復習して身につけなければならないと感じた。②③シラバス、クラスデザインの作成から模擬授業の設計を通して、自分の至らない点や教養科目の授業の設計の難しさを実感することができた。また、模擬授業を 2 回行った点は、他人のリアクションを受けての修正を行うことができたため、変化した点や依然課題として残った点などが明瞭となった。
- ・普段の研究環境、職場環境は自分の専門関係者といるのでとても視野が狭く価値観が凝り固まります。全く違う領域の方、社会背景の違う方、年代の違う方のリアルな意見、指摘はとても刺激と学びが多く目から鱗がたくさん落ちました。視野の拡大、思考の転換、人脈の拡大は授業だけでは限界があり、実際のコミュニケーションがより効果があります。
- ・学生側から教員側へ移行するうえで非常に重要なマインド、Tips、ルールのようなものが凝縮されており、学習と実践のバランスが絶妙でした。なんとなくこうなのかな、とイメージしていた自分の考えをさらに広げようという専門用語や図解が特に役立ちました。
- ・すべてにおいて、実践で役立つと考えます。
- ・1 日目の午後の授業は、実際に授業を行う際に気を付けなければいけないことが詰まった内容だったと感じており、自分の高等教育における教育の考えをより良い方向にもっていかれたのではないかと思います。シラバスとクラスデザインシートの検討では、自分とほかの方が作成したものを比較して足りなかった事やよりよく改善できる要素について意見をいただくことで認識できたことが良かったです。模擬授業では、自分では伝わるだろうと考えて作成した資料や話し方について意見を頂いたり気づきを得られてより成長することができたと思います。

- ・自分が作成したシラバスやクラスデザインに対して、多くの貴重な意見やアドバイスがあり新たな発見があった。自分が理解できても他人が理解できない書き方や言葉足らずな部分も多くあり、「誰が読んでも正しく情報が伝わり、理解できるシラバスの書き方」を学んだ。クラスデザインシートの作成は初めて取り組んだ。自分の講義を限られた時間のなか、どのように進めていくのか、あらゆる場面を想定しながらデザインするのは楽しくもあり、難しくもあった。しかし、クラスデザインをきちんとすることで、講義をするときにきっと自分の助けにもなり、学生により良い講義をすることができると思うので、4 月以降の大学での講義にも役立てるべく、もう一度見直しをしていきたいと思った。
- ・本プログラムのメインとも言える模擬講義は、万全の対策で臨んだが受講生からは「声の抑揚・表情・身振りや手振り」などの身体性や「アニメーションを用いた講義にした方が良い」など細かく様々な改善点をご指摘いただいた。自分の講義の様子を動画で確認しながら、2 回目の模擬講義に向けてスライドや講義のスタイルを変えていくのは、大変であったが、1 日目と比べて確かな成長と充実感があった。コメントでは、意外にも受講生は自分の 1 回目の模擬講義を細かく覚えていたようで、「自分がどこをどのように変更したのか」をはっきり指摘し、それに対して良い評価をしていただいた。学生は常に教員を見ているのだという意識を持って、丁寧な仕事を心がけていきたいと思った。
- ・今までシラバスを作った経験がないので、今回は実際にシラバス作成のルールに従って作ってみたら、不足点や改善点がわかってきました。また、模擬授業を実施し、先生方と皆さんから貴重なご指摘・意見を頂きまして、特に模擬授業の動画を見ながら、改善点や不足点が気づきました。大学教員を目指している私にとって、非常に助かりました。
- ・シラバスとクラスデザインの作成、及び模擬授業の実施がメインであり、そのための授業法が大変重要と感じたからです。
- ・役に立ったというより、受講生の皆さんのレベルの高さに衝撃を受けるとともに、自分の未熟さを痛感しました。
- ・「必要なんだろうなあ」という漠然とした気持ちで受講したが、なにがどこまで求められているのか、そして大学教育はどこへ向かっているのかというバックグラウンドと今後の展開を学んだことで気が引き締まった。その結果、翌日以降の講義に対する意欲が高まった。技術は学ぼうと思えば自力で何とかすることもできるが、その契機を得るまでに時間がかかることも多い。それを具体的に提供してもらえたため、初日が役に立ったと回答した。模擬講義は2回実施することの意味を実感したため4日目午前の②にチェックを入れている。
- ・実地でのワークは、私にとって非常に有意義で勉強になりました。事前準備で用意したシラバスやクラスデザインシート、模擬授業がどう評価されるのかがすぐにフィードバックされるのが特に良かったです。
- ・なかなか聞けない・体験できない内容を教えてもらったので。
- ・模擬講義を挙げた理由としては、両日とも講師・他の受講生からフィードバックを受けることができ、このプログラムを受講するに当たっての要望が叶えられていたからです。また、シラバスやクラスデザインシートの作成についても、他の受講生からフィードバックを得ることができ、実際に授業を担当することになった時にも作成できるようになったからです。また、全学共通の科目を対象としたため、他の学問分野がどのような基準で採点をするのかなど、自らの分野だけに固執していたとしたらわからないままであったことなども学ぶことができたからです。
- ・実際に自分の授業を見ること、どのように授業を組み立てるかを考えることは、これまで経験したことがない。このような実践的な経験は私の将来にとって非常に重要です。
- ・大学教育とはどのように考えていくべきか、学生とはどのように交流を図り教育していくのか、そのために有用であるモデルを提示した上で、授業内の課題で実践し、それらのモデルを知識としてだけでなく実際に自分で身に付けながら学んでいけたので、1 日目の午後と2 日目の午後の授業は役立ったと感じました。またオンラインではなく対面で皆さんにお会いし、目の前で模擬授業を行った経験は他では得られないものであると共に、自分の中での「大学教育」の理解が他の人にとっても同じであるのか違うのかを確認できたとても良い機会でした。

7. 東北大学 PFFP(大学教員準備プログラム)で、もっとも難しかった授業・たいへんだった授業は何ですか？(3つまでの複数回答可)

質問項目	回答人数
1 日目午前:イントロダクション、大学・高等教育の現在	1 人
1 日目午後:学生理解・教授法・授業設計論・評価①	5 人
2 日目午前:評価②・(ループリックの作成)	11 人
2 日目午後:シラバスとクラスデザインの作成	18 人
3 日目午前:シラバスとクラスデザインの共有・検討	5 人
3 日目午後:模擬授業①	12 人
4 日目午前:模擬授業②	7 人
4 日目午後:模擬授業のふりかえり・アカデミックキャリア・まとめ	0 人

8. 7 で選んだ理由をお書きください。

- ・論理的な知識を全部実施するのは難しい。
- ・難しかったというより、手を動かすので大変だった。しかし、大変だった分、学習成果と満足感が得られた。
- ・課題のタイミングでまだ講義いただいた知識を咀嚼しきれず、時間内に自分の考えをまとめることが難しかったです。
- ・意外と意見交換する時間が足りませんでした。とくに自分のシートの説明までたどり着かない方が多かったです。
- ・研究を優先してください、手を抜いてもいいですと解釈しなくなるくらい、手を抜くの途中までで良いは全く違いますが、後回しに

したくなりました。ですが、実際の教員は、研究に専念していればよいという訳ではなく、マルチタスク、デュアルタスクこなせて当たり前ですので、今回は応募の時点ではなく、参加が決定してから、PFFP 期間中は研究できないかもしれないという情報を出されましたが、今回の様にいきなり準備もなくの告知の方が対応力がつくかと思いました。

・教育学特有の横文字がスライド上の単語や発言にちよくちよく登場し、(授業内容全体を掴むのには支障がないが)置いていかれる場面があった。そういった場面ではあまり内容が頭に入ってこなかったが、時々出てくる大学教員生活での先生の微苦笑なエピソードが伴う内容は非常に面白く聞き入ってしまった。

・模擬授業②は①での各コメントをどう生かせばよいか悩みぬいた、という点で「難しい」と判断しました。

・①評価基準をどのように設定すればよいか正解がないと実感し、難しさを痛感した。②短い時間の中でどのように授業を展開するのに苦慮した。③どのようにして修正するのかに苦慮した。

・作成するのが初めてでどこまでのことがシラバスに求められるのかわからなかった。また頭の中の構想を文章化、可視化する行為も難しかったです。

・様々なルールや配慮に気をつけながら構想を練るのに苦しんだため。履歴書などもそうですが、自分の中でテンプレートができることで改良を重ねることができるので、今回でコツをつかめたように思います。他人の作成したものを評価する、というのも勉強になりました。

・教科によって評価の仕方を工夫する必要があり、自分の専門ではテストを使用した直接評価が主に使用されるため、ルーブリックの作成がチェックリストになっていないか判別が難しかったです。シラバスとクラスデザインの作成は、それぞれの流れを意識しながら作成する必要があったので、思い描いたものが現実的なものであるか考えながら作成することが難しかったです。15回分の流れを思い描くこと自体が大変でした。1単位分の量なら何とか…一回目の模擬授業よりも良いものになっているのかという不安があり、すこし緊張してしまいました。

・ルーブリックは初めて作成した。構成要素や評価指標およびレベルの設定は、各段階ごとに重複しないように、そして「何を具体的に評価するのか」を考えるのが難しかったです。点数をつけにくいレポート課題などは特に、○×問題でない分、その講義で目指す到達目標に学生が達しているかを判断するのは難しい。学生は、余程の不满がない限りは採点に問い合わせをしてくることはないと思うが、教員の気分や主観で評価するのは正しい成績の付け方ではない。自分の講義で求める到達目標をしっかりと明示した上で、「何を評価するのか」をレベルごとにしっかりと決めて、正しい評価ができるように今回のルーブリックにより磨きをかけて考えていきたい。

・模擬講義 2 回目について。1 回目の模擬講義を意識して、事前準備で自分なりにシラバス・クラスデザインを元にならかなりスライドと内容を作り込んで臨んだものの、受講生からは多くのアドバイスをいただく結果となった。つまり改善点がまだまだたくさんあったということである。いただいたコメントをもとにホテルでスライドを作り直し、さらに模擬講義の動画も恥ずかしながら視聴して 2 回目の模擬講義に向けて準備を行なった。改善点が多かった分、修正に時間がかかりとても大変であったが、コメントを反映したスライドは自分のスライドではないような確かな成長を感じた。さらに模擬講義②を意識した声出し練習も行い、総合的な改善を行なったため、苦労の分、短期間で大きく成長できたと思った。

・理論知識を知っているといっても、実施できるとは限らないので、やはり資料を作成した時に、どのような宿題を出せばいいのか、どのような授業構成にすればいいのか、学生とのやり取りなど、色々考えなければなりません。そして、作ったシラバスに従って実際クラスデザインを作成したとき、色々ズレも出てきました。非常に難しかったです。

・シラバスとクラスデザインの設計内容と模擬授業の内容を合わせるのが難しかったです。

・各日、会議、面談などの校務が緊急に入り、シラバスとクラスデザインシートの作成は激務でした。研究と教育という大学教員としての実践力の発揮の場である授業ですが、現在の職務と研究内容が完全に一致せず、とりあえず授業をすとしたらこんな感じ…程度だったので、実際の授業内容がどのようなものかなかなかイメージできないままでの準備、実践だったので、時間的なものもあるが、精神的な負担感も大きかったです。

・実際にシラバスとクラスデザインシートを作る授業(課題)はやはり難しかったです。だが、これから初めて行うことだから難しいことであり、難易度が高いというわけではない。そして、今回1講義分を作成したことで履歴書に記入する際や面接では「作ったことがある」と書けるので得難い経験だった。

・1 日目の PM を選んだのは、知識として定着させるのが難しいと思いました。とはいえ、一度の授業で吸収できることは限界があると思うので、内容としては妥当だと思いました。他のシラバス・クラスデザインシートの作成や模擬授業の準備は、難しくはありませんが、準備はやはり少し大変でした。特に、3 日目のシラバス共有で周囲とズレた内容だということ把握したうえで、模擬授業を行うのは辛いものがありました(笑)(←自分が完全に悪いのですが)。事前に戸村先生と共有しておけばよかったと後悔しています。

・初めて行うことばかりで準備や理解が大変だったため。

・最も大変だったのシラバスとクラスデザインシートの作成でした。なぜなら、期間が短く、1 日目と 2 日目で学んだことを振り返りながら自分の専門に落とし込むという作業に思いのほか時間がかかったからです。また、より良いものを作ろうとして、効率的にできていなかったというのもその原因かもしれません。模擬授業に関しては、初回は自分の考えだけでしたので比較的スムーズにできましたが、他者の意見を取り入れながら実践するのはなかなか大変で、学生が支払う学費の対価としての「授業」とするには訓練し続けることが重要だと痛感したからです。

・実際に、全体としては難しくありません。もちろん、これは私自身の理由であり、授業のスケジュールが原因ではありません。

・評価基準を考えることが最も難しいと感じました。なぜなら自分自身も何が悪いレポートで何が悪いレポートであるのか、レベル分けが出来るほど理解していなかったからです。

9. 費用についてお聞かせください。受講料(9,000 円)についてどう思いましたか？

質問項目	回答人数
このプログラムであれば、もっと高くても良い	8 人
このプログラムであれば、この金額が適切だ	18 人
このプログラムであれば、もっと安くするべきだ	0 人

10. プログラムに参加するにあたり、だれが費用を負担しましたか？

	本人の自己負担	本人の研究費	大学負担	指導教員や研究室の負担	費用が生じていない
受講料	88%	8%	4%	0%	0%
交通費	65%	8%	12%	0%	15%
宿泊費	62%	8%	12%	0%	19%
滞在費その他	81%	4%	0%	0%	15%

11. 費用についてご意見がありましたら、お聞かせください(よろしければ受講料の具体的な金額もお聞かせください)。

- ・「2」で回答しましたが、もう少し時期が早いと、何かしらの経費での支弁を検討しやすくなると思いました。
- ・社会人の場合は、2万円以下ぐらいまでであればお金を払ってでも参加したいプログラムであると思います。
- ・費用は多少アップしても良いと思います。懇親会の 500 円は、良心的な金額でした。
- ・特に問題ないと思います。
- ・講師陣の手厚いサポートに加え、最後にはハードカバーの豪華な修了書もいただけたので感無量でした。受講者との交流も含め、9000 円以上の価値がありました。移動費・宿泊費等を考慮すると全体で 5 万円前後と推測されますが、その分、受講生の熱意が垣間見えました。また、下世話な話ですが、4 日間、基本料 9000 円の講義で業績欄を増やせるので(しかも競合相手と差がつきやすい教育に関する項目で)、タイム/コストパフォーマンス最高です。
- ・9でこのプログラムであれば、もっと高くても良いと思いましたが、遠方からの参加者は旅費と宿泊費を自己負担する場合がありますので適切と考えます。また、申請から決定までに時間を要するので、航空券(空路も加味する必要あり)やホテル(駅前のホテルは予約が埋まる)を安価で確保できません。
- ・受講料は非常に安いというのが正直な感想ですが、福岡から飛行機を利用し、仙台に3泊したので、トータルそれなりの出費ではありました。その価値は十分にあると思いますが。
- ・受講料以外の交通費、宿泊費などなどの出費が多かったです。大学院からの補助があるのか事前に聞いてなかったので、今後、相談してみます。
- ・個人的には1万円を超えてもいいと思うが、今回参加するにあたって大学からの目は「この時期に研究以外のことを？」といった塩梅に厳しかったため、逆風でも学生が参加するのを諦めない額は1万円以下だと感じた。しかしながら、あまりに安すぎると(例:5,000 円以下)プログラムの価値が下がるので、このまま継続するのが好ましいと思う。実際参加してみた結果、9,000 円で本プログラムに参加して修了証がもらえるならばお得だな・後輩にもすすめたいな、と思えた。
- ・今回、受講料を含めすべての費用を自らの負担で参加しました。確かに、大学院生としては高額な出費になりましたが、そのことを加味しても受講料は安いと感じました。
- ・自分の研究費がなかったので、自費で出しました。指導教員へお願いしづらいという部分があるので、プログラムの募集要項か同意書に文章が一部書いてあるとありがたいと感じました。

12. このプログラムをどのように知りましたか？(いくつでもお選びください)

質問項目	回答人数
自分が所属している大学からの連絡・掲示	22 人
ツイッター等の SNS	1 人
自分が個人で登録している大学イベント関係のメーリングリスト	1 人
その他	4 人

13. 12で「その他」を回答された方は、よろしければどのように知られたかを教えてください。

- ・研究室の同僚から情報提供があった。受講経験のある教員からのおすすめもあった。
- ・所属研究室の教授にご提案いただきました。
- ・指導教員から教えていただきました。
- ・指導教員からのメール。

14. プログラムの運営面も含めて、その他ご自由にご意見をお聞かせください。

- ・非常に満足度の高いプログラムで、受講して良かったと思っています。ぜひ後輩に勧めたいと思います。立派な修了証も嬉しかったです。
- ・久しぶりにこのような授業(プログラム)に参加して、がっつり授業を受けたり、なじみのない分野の課題に取り組んだり、全く知らない分野の模擬授業を受けることは、「初学者の感覚」を思い出すきっかけにもなりました。模擬授業では、自分の至らない点にたくさん気づけたことはもちろんですが、自分で気づいていなかった部分を褒めていただいたことも新たな気づきに繋がりました。2 回目の模擬授業で、新しいことを複数取り入れた結果、気が回らなくなってしまったところもあり、あまり欲張りすぎずに少しずつ微修正していこうと思います。貴重な機会をありがとうございました。戸村先生はじめ、運営やご支援くださったみなさま、有意義な場を一緒につくってくださった参加者のみなさまに感謝いたします。
- ・実務家教員を目指す人が増えているようにおもいますので、その方に向けた料金設定をしても大丈夫のように思います。なお、私は兄弟子がこのプログラムを受講し、就職に役に立ったとコメントしていたことがきっかけになっています。やはり口コミという媒体で具体的に役に立ったという情報が広がることで人気の講座になるように思います。最後になりましたが、本当に充実した講座を提供していただきありがとうございました。
- ・名刺交換の機会がたくさんあったのですが、自分の所属研究室では名刺を持つという文化がなく、名刺をいただくばかりで残念に思いました。社会人でもなく、研究型でない中堅？教育型大学所属の身としては、「例年の参加者の方の中には個人的に名刺交換されている方達もいるようです」という情報が欲しかったです。
- ・楽しく教えることと聴衆との温度差について様々な意見を聞き学ぶことができて大変良かった。楽しそうに授業することは「面白さ」と少しの「狂気」を内包しており、少数数のクラスでは面白さの方が際立つが、大人数のクラスでは聴衆との間に溝ができる可能性もあり学生への理解確認配慮が必要であるとよく理解できた。今回の模擬授業では、学生役が全員優しかったが、実際の授業では 8~9 割ぐらいは授業に興味がないはずなので、それをどう引き込むかの難しさについても痛感した。結果として大変意義深い 4 日間であった。
- ・忘れないうちに、例えば、夏休み期間に PFFP 受講者の応用編(上級編)があると有り難い(※出来れば上級編の「修了書」も頂きたい。)。多くのことを学ばせて頂き、誠にありがとうございました。良き仲間にも恵まれ、研究仲間も出来ました。本当に参加して良かったです。
- ・2/7 にある大学の最終学長面接・模擬授業がありますので、それに生かせることを確信しています。今後何かお手伝いできることあればお声がけください。本当にお世話になりました。どうもありがとうございました。
- ・模擬授業の時間をもう少し長く(15 分程度)にしてもらえると準備がしやすく、より趣旨が伝わるのではないかと感じた。
- ・主催側の労力も大きくご苦労も多かったと思います。お疲れ様でした。主催者の皆様にとってもご自身の専門と違う方のご意見やプレゼンが視野拡大の機会になれば嬉しい限りです。追加の意見としてはせっかく 30 人以上の方が日本全国から集まっていたのに聞けたプレゼンは 10 人ほどです。講義として意見交換するには 10 人までが限界とは思いますが、これだけ貴重な人材が集まってきているのですからより多くのプレゼンを生で聞ける機会を検討いただくとより刺激の多い学びになるのでは無いかと思いました。他の人のもっと生で聞きたかったというのが本音です。各々の分野で今後を担う人材へより良い学びの提供を今後も模索、提供して頂けると嬉しい限りです。ありがとうございました。
- ・環境を整えてくださった講師陣に厚く御礼申し上げます。また、グループ分けはちょうど良い人数で、志を同じくする方々とディスカッションを通して打ち解けられたので楽しめました(正直な話、理系の場合は企業や研究所から急にアカデミアへ転向して准教授レベルに収まる人がいるので、PFFP で学んだような「講義の何たるか」を知らずに講義しているのかと思うとゾッとします)。本プログラムの不満は 1 点だけ、模擬授業 1 日目のフィードバックが翌朝まで何故か見れなかったことです。2 日目のフィードバックもそうですが、すぐに見れる人と見れない人がいるようでした。
- ・1.戸村先生には、学生全員に対してきめ細やかな配慮をして頂きまして、心よりお礼を申し上げます。事務局の皆様・補佐をいただいた先生方にもお礼を申し上げます。2.プログラムの課題提出については、当方のミスもありましたが、編集ないしは再編集(差し戻し)ができなかったことは残念でした。
- ・研究と合わせてシラバスとクラスデザインシート、模擬授業の作成に時間を割いてしまい、1日目2日目の授業の復習をする時間が取れなかったので、3日目に少しキーワード程度でよいので振り返る時間があればと思いました。戸村先生の授業がとても参考になりました。グループワークで他の人と話すことや休憩のタイミングなど集中力が切れそうなときに気持ちを切り替える時間があつたため4日間を乗り越えることができました。ありがとうございました。
- ・戸村先生やスタッフの皆さんのおかげで充実した講義を受講することができた。応募の際は「博士課程 1 年生だから参加できないかもしれない」とは思いつつも来年度 4 月から非常勤講師として大学で講義をすることも内定していたため、「大学教育のあり方や教育の基礎について学んでみたい」という思いもあったため参加を申し込んだ。学部・修士課程で教職課程を履修していなかった私は「大学でちゃんと教育について学び、模擬授業で実践した上で非常勤講師の仕事を始めたい」と思っていたので、本プログラムの全てが大変有意義であり、また教育や教員についての認識を考え直すきっかけにもなった。これは実際に教員として働いている方、大学で研究員として働いている方のお話をたくさんお聞きして感じた気持ちが反映されるため、参加者の年齢層が幅広いこのプログラムならではの感じた。大学では、同じ年齢の学生との交流がほとんどであるが、年齢や学生・社会人・役職を気にせず参加を受け入れてくれるこのプログラムでは、教育について学ぶことができるだけでなく、今後のキャリアや生き方・価値観など多くのことを学ぶことができる。懇親会での名刺交換や LINE の交換で同じ分野や異分野の受講生(研究者)と知り合いになることができたため、研究者の交流という点でもこのプログラムは優れている。前述の通り、来年度 4 月から大学で講義をすることになるため、今回のプログラムで学んだことをあと 2ヶ月後には、フル活用して講義をしなければならぬ。このプログラムで得た多くの財産を自分の中で再度振り返って 4 月から頑張っていきたい、そう思えるプログラムであった。最後に今回のプログラムに参加させていただいたこと、丁寧なご指導やアドバイス、進路相談に乗っていただいた先生・スタッフの皆さん・受講生の仲間達に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。
- ・1、社会人はこの短期間のプログラムにも参加できれば幸いです。2、大学授業でよく使う教学ソフト・ツールや使い方を少し紹介していただければ、非常に助かると思います。

- ・今回の募集について、同じ研究室に在籍する方と二人で申し込み、私だけが選考に通りました。できれば二人で参加して、今後の研究の励みにしたいと考えていましたが、残念でした。どんな基準で選考されたのかと思いつつ、選ばれて参加するからには、それなりの準備をしなければならぬと責任を感じ、それなりに準備して臨みました。ところが、実際に参加してみると、1回目の講習から、特に午後から、難易度の高さを実感しました。さらに、現地での他の受講者の授業を見たり、その後の意見交換の中で、自分自身の、大学の授業という営みに関しての準備の拙さに打ちのめされました。模擬授業の場面では、授業内容からそれぞれの研究が垣間見られ、みなさんの嬉々として講義をされる姿を目の当たりにして、劣等感を抱きました。しかしながら、今回のプログラムの経験をバネに、相当な苦勞が想定される大学教員という職業に対して、諦めるのではなく、多くのエネルギーを費やすことができることへのやりがいを感じました。今回お世話になったすべての方に感謝申し上げます。4日間大変お世話になり、ありがとうございました。今後とも、よろしく願いいたします。
- ・大学教員の募集要項を見た時に、自分は教育実績の欄に書けることがないと思ったのが参加の理由でした。そのため、一文でも二文でも胸を張って書けるようになったことを嬉しく思っています。話すことがあるというのは非常に心強いです。そして、4日間の講義は非常に有意義で刺激的でした。私は周りに同期がおらず、D2になって自分はどういう院生なのか、そもそも学んできたことができるようになっているのかというところから不安だったため、今回様々なワークを通じて今できていることと伸ばすところを再確認できました。これはプログラムの副産物であると思いますが、私にとっては大きな経験でした。お世話になった全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。
- ・全体を通して、非常に有意義で実りの多いプログラムでした。参加させていただき、ありがとうございました！教員を志望する学生がいれば、積極的に参加を薦めようと思います。
- ・費用について、結果的に校費で宿泊費・旅費を出してもらえたが、就活目的と捉えられて説明が難しかった。交流やITAなど在学习中に役立つ点もあることをもっと明記していただけると説明しやすいかもしれません。集中講義のため難しいかもしれませんが、別グループの人との交流が難しかったのが少し残念でした。今回参加してスキル向上という点でも、色々な境遇の博士の人がいることを実感できた点でも良かったです。ありがとうございました。
- ・プログラムの内容が充実しており、期待した以上のことを学び、身につけることができました。それだけでなく、3日目の終了後に行われた懇親会など、他分野の受講者同士の交流などの場も設けられており、非常に得るものが多かったです。大学教員に就職した際には、何らかの形でこのプログラムにも貢献させていただけたら嬉しい。
- ・とても段取りや構成が完成されていた講義だと感じました。アカデミックを目指す教員ないし、教職を目指す学生にとってもとても為になる講義であると感じました。

* アンケート回答のうち、受講者の個人情報*特定できる箇所等については、文言を修正して掲載しています。